

平成30年度 マツ材線虫病の被害状況について (平成30年10月末時点 中間報告)

静岡市 観光交流文化局 文化財課

平成30年度 マツ材線虫病の被害状況(H30. 10月 中間報告)

区分	H26	H27	H28	H29		H30	
				H29.10	H30.5	H30.10	H31.5
枯損本数 (本)	266	181	115	34	83	84	
マツ材線虫病被害木	199	133	59	10	33	9	
(DNA検査陽性木)	—	—	—	(9)	(24)	(2)	
その他(被圧等枯損木)	67	48	56	24	50	75	
マツ材線虫病被害率 (本/ha)	5.86	3.92	1.74	0.29	0.97	0.26	
(DNA検査木陽性率)	—	—	—	(0.26)	(0.71)	(0.06)	

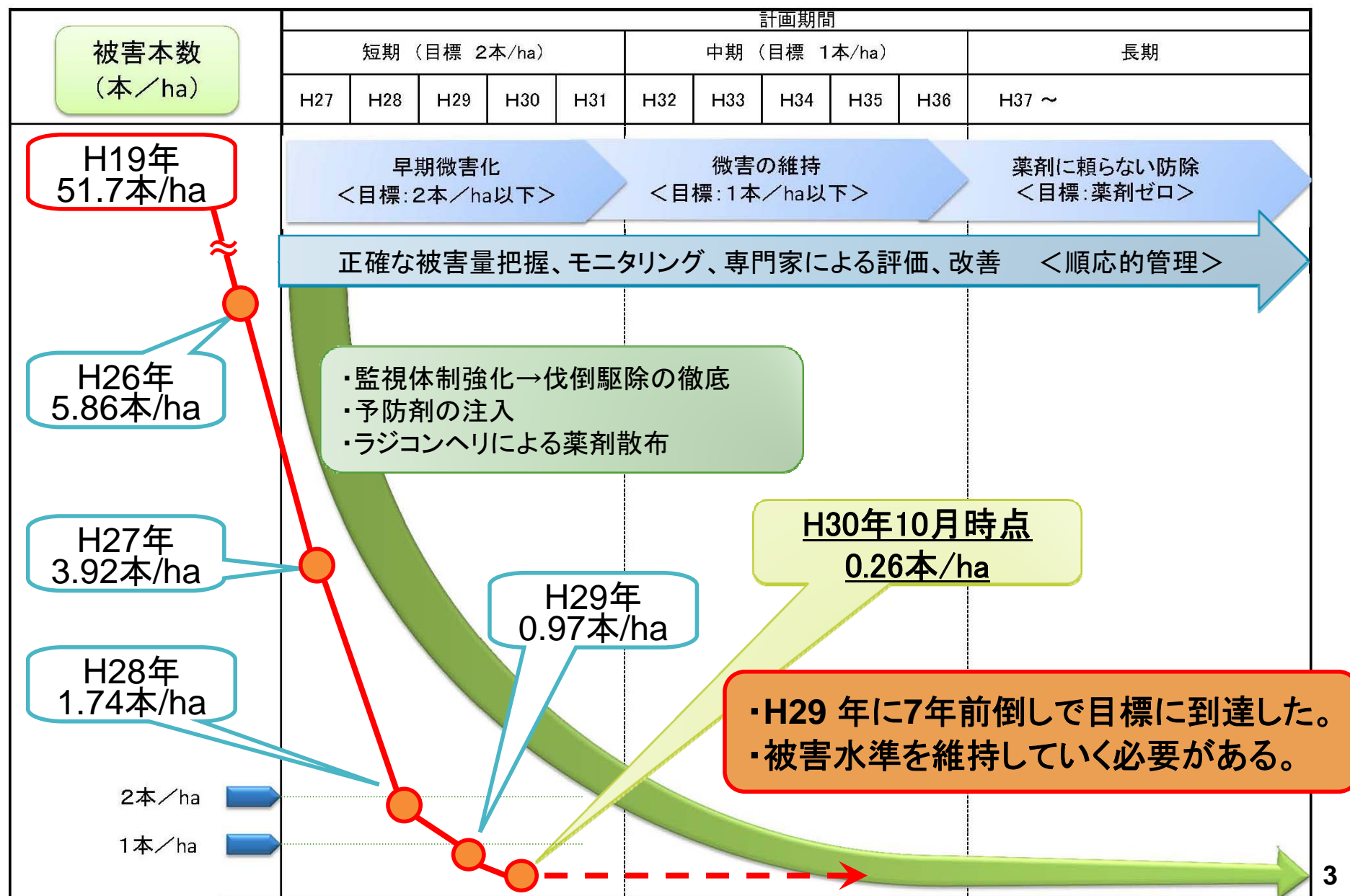
・マツ材線虫病被害木は、
DNA検査で陽性となったマツと病徴が確認されたマツの合計本数(9本)

・マツ材線虫病被害率は、
三保松原の松林面積 33.97haあたりのマツ材線虫病被害本数
(平成30年10月時点 9本 ÷ 33.97ha = 0.26 本/ha)

マツ材線虫病の病徴

マツの葉が緑の状態、ヤニの漏出が止まり、その後、葉が赤くなる等の症状

早期微害化のロードマップ と 被害率の推移



平成30年度 マツ材線虫病の被害状況

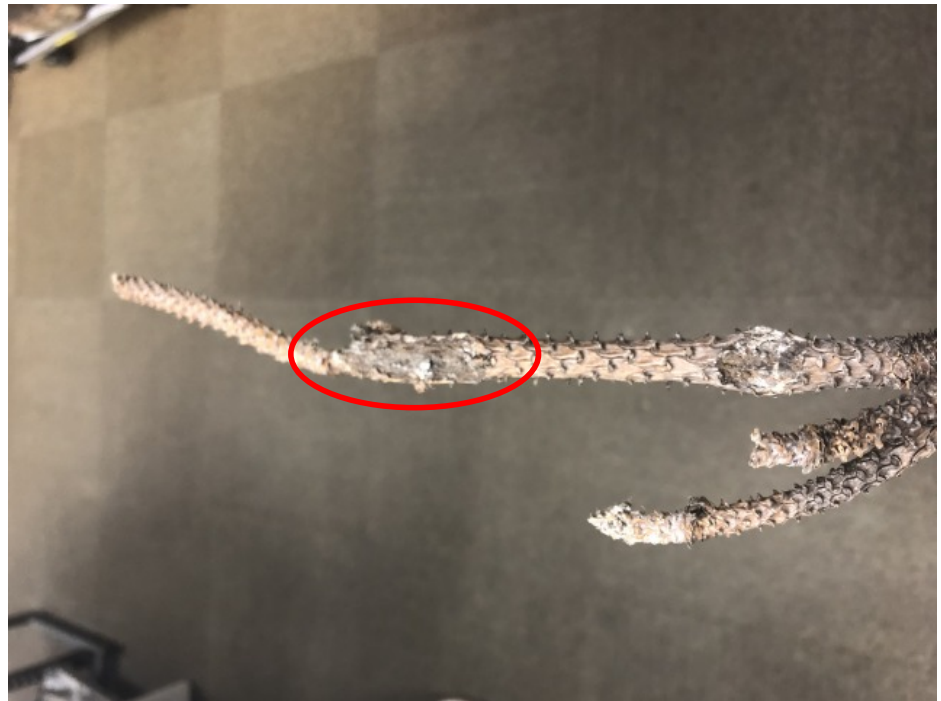
三保松原で発見されたマツノマダラカミキリの幼虫や成虫の後食痕



三保松原には、いまだにマツノマダラカミキリが生息している。



マツノマダラカミキリの幼虫 (H30.9撮影)



今年度枯れたマツの後食痕※ (H30.9撮影)

マツ材線虫病の感染拡大のリスクは残っている。

※後食痕: マツノマダラカミキリがマツの枝を食べた痕。この傷口からマツ材線虫病に感染する。

平成30年度 マツ材線虫病の被害対策

三保松原において、マツ材線虫病の被害は、**微害化が維持されつつあり**、
引き続き、**薬剤に頼らない管理に向け、検討していく。**



しかし、**いまだに感染拡大のリスクや課題は残っている。**

- ・三保松原内にマツノマダラカミキリが生息している。
- ・外部からマツノマダラカミキリが侵入する可能性がある。 など



今年度開発するデータベースを活用し、今後も徹底したマツ材線虫病の対策を行う。

また、平成31年5月時点での被害状況も調査し、
被害状況の変化や、明確に対策が必要になった場合は、**対策の見直しを柔軟に行う。**